

令和4年度 事業報告書

社会福祉法人マザアス



高齢者福祉総合施設 マザアス東久留米

高齢者福祉総合施設 マザアス日 野

地域密着型複合施設 マザアス新 宿

目次

I.理事長報告.....	5
II.現況報告（令和5年3月31日現在）	6
1 基本情報	6
2.社会福祉事業	6
(1)（老人福祉）第1種社会福祉事業（3施設）	6
(2)（老人福祉）第2種社会福祉事業（15事業所）	7
(3)（障害福祉）第2種社会福祉事業（2事業所）	8
3. 公益事業（8事業所）	8
4. 組織.....	9
(1) 理事（定員7 現員7）、監事（定員2 現員2）	9
(2) 評議員（定員8名 現員8名）	9
(3) 施設長.....	10
(4) 職員数.....	10
(5) 外国人雇用状況.....	10
(6) 職員平均年齢/平均勤続年数.....	10
(7) 資格取得人数 ※重複含む.....	11
(8) 理事会.....	11
(9) 評議員会.....	12
(10) 監事監査.....	12
資産管理	13
6. その他	13
(1) 情報公開.....	13
(2) 外部審査等.....	13
(3) 第三者評価.....	14
(4) 苦情解決件数〔第三者委員会提出件数〕	15
(5) ヒヤリハット件数.....	15
(6) 事故件数.....	15
(7) 行政に報告した事故件数（感染症含む）	15
(8) 実習生の受け入れ（年間延べ受け入れ人数）	16
(9) ボランティア活動（年間延べ活動人数）	16
(10) 外部研修（参加延べ人数）	16
(11) 内部研修（実施回数）	16
(12) 外部発表.....	17
(13) 外部団体活動（理事長/施設長）	17

7. コンプライアンス委員会	18
(1) 令和4年5月6日	18
(2) 令和4年7月8日	18
8. 事故調査委員会	18
(1) 令和4年7月8日	18
III.経営状況	19
1. 離職率	19
2. バイタルデータ（年度比較）	19
3. 法人単位の資金収支の状況（資金収支計算書）	21
4. 法人単位の事業活動の状況（事業活動計算書）	21
5. 法人単位の資産等の状況（貸借対照表）	22
6. 積立金の状況.....	22
7. 関連当事者との取引の内容.....	22
8. 準拠している会計基準.....	23
9. 地域福祉ニーズへの対応状況	23
IV社会福祉法人マザアス 法人本部事務局	24
1. 令和4年度総括	24
V高齢者福祉総合施設 マザアス東久留米	25
1. 令和4年度総括	25
(1) 障がい分野での事業拡大.....	25
2. 特別養護老人ホーム マザアス東久留米／短期入所マザアス東久留米.....	28
3. デイサービスセンター マザアス氷川台	29
4. 認知症対応型デイサービス湧泉の郷	30
5. デイサービスセンター マザアス大門.....	31
6. ヘルパーステーション マザアス氷川台	32
7. 居宅介護支援事業所 マザアス氷川台.....	33
8. 東久留米市東部地域包括支援センター	33
9. 就労継続支援B型事業所	34
10. グループホームひかわだい	35
11. グループホームおがわ	36
12. 地域公益活動.....	37
VI高齢者福祉総合施設 マザアス日野	38
2. 特別養護老人ホーム マザアス日野	42
3. 短期入所生活介護 マザアス日野	42
4. デイサービスセンター マザアス多摩川苑.....	43
5. ヘルパーステーション マザアス多摩川苑.....	44
6. 居宅介護支援事業所 多摩川苑	44

7. 日野市地域包括支援センター 多摩川苑	45
8. グループホーム たまだいら	46
9. 小規模多機能ホーム みなみだいら	47
10. 小規模多機能ホーム さかえまち	48
11. 東京都多摩若年性認知症総合支援センター	49
12. 地域公益活動.....	50
(1)配食サービス.....	50
(2)あったカフェ（認知症カフェ）	51
VII地域密着型複合施設 マザアス新宿	52
1. 令和4年度総括.....	52
2. 地域密着型特別養護老人ホーム／ショートステイ	56
3. 小規模多機能ホーム さくら	58
4. グループホーム つつじ	60

I.理事長報告

介護の事業は客観的にみても危機的状況にあるといえるが、そのキーワードは「変化」で表現できるような気がする。

3年続きのコロナの影響によるサービスの利用控え、利用者や職員への感染は事業収入に大きく影響する結果となっている。また、社会的要因からきた物価や光熱費の高騰が経営を圧迫しているのに、介護報酬は公定価額となっている。

このような状況のなかで事業活動資金収支差額69,251千円となったことは、多くの職員が体を張って生み出したものと感謝している。

コロナは特別養護老人ホームの在りようも変えた。家族と入居者の面会を制限し、多くあったボランティア活動も自粛を余儀なくされ、地域住民との交流する機会がなくなった。何よりも社会法人としての責務とたされている公益的活動も休止する活動も多くあった。これらの活動の再構築と新たに生じている課題に対する対応策が求められている。

職場では新規に採用する職員の大半が中途採用と外国籍の方となっていて、この傾向はこれからも変わらないだろうから人材育成には、より資金と労力を割かなければならない。

各事業を点検すると、従来課題としていた「就労継続支援B型事業所マザアス」が経営計画の見直しによってよい結果をみてきたが、新宿事業所が法人として初めてとなる事故の影響と職員不足が重なって大きな課題を残した。

今年度は介護保険創設以来最高の倒産数の報道をみた。その原因はコロナの影響、人手不足等であって、公益財団法人・介護労働安定センターの調査（2021年度）によると事業所の約63%が従業員「大いに不足」「不足」など不足感を訴えていた。倒産に至らなくとも合併、業務提携、法人役員全員交代による法人の移譲もあると伝え聞いている。現に収益法人事業者から業務提携やある法人からの事業譲渡の話があったことも事実である。

組織の活性化には様々な手段があるが、人事は大切手段であろう。

拠点事業所の施設長人事は慎重に進めてきた。結果的には東久留米事業所及び日野事業所施設長で、新たな施設長の配置を決めることができた。

高齢者数がピークになる、いわゆる「2040年問題」で東京では介護難民が生まれるといわれているが、いつから難民が生まれるのか。待機者リストはあっても具体的な入居は容易ではない現実もある。本当の姿が見えない難民が隠れているのかも知れない。

今求められていることは利用者の真のニーズを知り、適切なケアを提供して、生きる道を拓いていくことであろう。

Ⅱ.現況報告（令和５年３月３１日現在）

１ 基本情報

所轄庁	東京都
法人名	社会福祉法人 マザアス
主たる事務所の所在地	〒203-0004 東京都東久留米市氷川台二丁目５番７号
電話番号	042-477-7261
FAX 番号	042-477-7500
ホームページアドレス	https://www.moth.or.jp
メールアドレス	office@moth.or.jp
設立認可年月日	平成６年１０月１８日
設立登記年月日	平成６年１０月１９日
代表者氏名	高原 敏夫
就任年月日	平成 26 年 10 月 20 日

２.社会福祉事業

（１）（老人福祉）第１種社会福祉事業（３施設）

施設名・事業所名（事業所番号）	定員
所在地	事業開始年月日
特別養護老人ホーム マザアス東久留米（1374800074）	80
東京都東久留米市氷川台二丁目５番７号	平成 7 年 5 月 8 日
特別養護老人ホーム マザアス日野（1373500139）	106
東京都日野市万願寺一丁目１６番１号	平成 11 年 5 月 1 日
地域密着型特別養護老人ホーム マザアス新宿（1390400107）	29
東京都新宿区新宿七丁目３番３１号	平成 22 年 5 月 1 日

(2)(老人福祉) 第2種社会福祉事業 (15事業所)

施設名・事業所名 (事業所番号)	定員
所在地	事業開始年月日
デイサービスセンター マザアス氷川台 (1374800181)	(介護・予防) 39 (認知症) 12
東京都東久留米市氷川台二丁目5番7号	平成7年7月1日
デイサービスセンター マザアス多摩川苑 (1373500287)	(介護・予防) 45 (認知症) 12
東京都日野市万願寺一丁目16番1号	平成11年5月1日
デイサービスセンター マザアス大門 (1374800322)	(介護) 10 (予防) ①9 ②9
東京都東久留米市大門町二丁目10番5号	平成11年7月1日
ショートステイ マザアス東久留米 (1374800207)	10
東京都東久留米市氷川台二丁目5番7号	平成7年7月1日
ショートステイ マザアス日野 (1373500139)	14
東京都日野市万願寺一丁目16番1号	平成11年6月1日
ショートステイ マザアス新宿 (1374801106)	3
東京都新宿区新宿七丁目3番31号	平成22年5月1日
ヘルパーステーション マザアス氷川台 (1374800199)	
東京都東久留米市氷川台二丁目5番7号	平成8年7月1日
ヘルパーステーション マザアス多摩川苑 (1373500527)	
東京都日野市万願寺一丁目16番1号	平成12年7月1日
グループホームひかわだい (1374800553)	9
東京都東久留米市氷川台二丁目6番6号	平成14年3月1日
グループホームたまだい (1373501327)	9
東京都日野市多摩平二丁目13番14号	平成17年9月1日
グループホームおがわ (1394300014)	18
東京都小平市小川一丁目113番8号	平成18年7月1日
グループホームつつじ (1390400123)	18
東京都新宿区新宿七丁目3番31号	平成22年5月1日
小規模多機能ホーム みなみだい (1393500036)	(登録) 29
東京都日野市南平三丁目10番2号	平成20年9月1日
小規模多機能ホームさくら (1390400115)	(登録) 29
東京都新宿区新宿七丁目3番31号	平成22年5月1日

小規模多機能ホームさかえまち (1393500069)	(登録) 29
東京都日野市栄町二丁目17番1号	平成23年5月1日

(3) (障害福祉) 第2種社会福祉事業 (2事業所)

施設名・事業所名 (事業所番号)	定員
所在地	事業開始年月日
ヘルパーステーション マザアス多摩川苑 (1313500678)	
東京都日野市万願寺一丁目16番1号	平成23年11月1日
就労継続支援B型事業所マザアス (1314400639)	
東京都清瀬市松山一丁目4番20号203	平成29年7月1日

3. 公益事業 (8事業所)

施設名・事業所名 (事業所番号)	定員
所在地	事業開始年月日
居宅介護支援事業所 多摩川苑 (1373500030)	
東京都日野市万願寺一丁目16番1号	平成12年4月1日
居宅介護支援事業所 マザアス氷川台 (1374800504)	
東京都東久留米市氷川台二丁目5番7号	平成13年6月1日
東久留米市東部地域包括支援センター・本部 (1304800012)	
東京都東久留米市大門町二丁目10番5号	平成18年4月1日
東京都東久留米市氷川台二丁目5番7号グループホームひかわだい内 (本部)	
日野市地域包括支援センター 多摩川苑 (1303500092)	
東京都日野市万願寺一丁目16番1号	平成21年4月1日
東京都多摩若年性認知症総合支援センター	
東京都日野市多摩平二丁目2番4号 ニコール豊田ビル4階	平成28年11月10日
高齢者食事配達サービス事業 日野	
東京都日野市万願寺一丁目16番1号	
高齢者食事配達サービス事業 大門	
東京都東久留米市大門町二丁目10番5号	

4. 組織

(1) 理事（定員 7 現員 7）、監事（定員 2 現員 2）

役職名	氏 名	役員選出区分	任 期	理事会出席 回数/5
理事長	高原 敏夫	社会福祉施設及び福祉関係団体	～R5. 6	5
理事	衣川 輝夫	社会福祉施設及び福祉関係団体	～R5. 6	5
理事	千先 勉	社会福祉活動に協力する個人・団体	～R5. 6	3
理事	松澤 雅子	社会福祉施設及び福祉関係団体	～R5. 6	4
理事	古谷 晋	社会福祉施設及び福祉関係団体	～R5. 6	5
理事	石原 正弘	社会福祉活動に協力する個人・団体	～R5. 6	5
理事	早坂 徹	社会福祉活動に協力する個人・団体	～R5. 6	4
監事	吉田 剛	財務管理について識見を有する者	～R5. 6	4
監事	我謝 悟	社会福祉事業について識見を有する者	～R5. 6	5

(2) 評議員（定員 8 名 現員 8 名）

役職名	氏名	役員選出区分	任期	評議員会 出席回数/2
評議員	児玉 桂子	学識経験者	R3. 6～R7. 6	2
評議員	上田 健	地域の福祉関係者	R3. 6～R7. 6	2
評議員	古賀 誉章	学識経験者	R3. 6～R7. 6	1
評議員	細谷 祥子	社会福祉活動に協力する個人・団体	R3. 6～R7. 6	2
評議員	細渕 裕子	地域の福祉関係者	R3. 6～R7. 6	2
評議員	村本 英那	地域の福祉関係者	R3. 6～R7. 6	2
評議員	町田 秀三郎	社会福祉活動に協力する個人・団体	R3. 6～R7. 6	2
評議員	砂長谷 和子	地域の福祉関係者	R3. 6～R7. 6	1

(3) 施設長

施設名	氏名	就任年月日
高齢者福祉総合施設マザース東久留米	松澤 雅子	H25.6.1
高齢者福祉総合施設マザース日野	古谷 晋	H28.7.1
地域密着型複合施設マザース新宿	羽生 隆司	R4.5.1

(4) 職員数

	常勤/専従		非常勤				合計	
			人員数		換算数		換算数	
	R5. 3	R4. 3	R5. 3	R4. 3	R5. 3	R4. 3	R5. 3	R4. 3
法人本部	1	1	0	1	0	0.6	1.0	1.6
東久留米	72	73	128	124	64.0	62.9	136.0	135.9
日 野	110	116	96	94	38.0	33.3	148.0	149.3
新 宿	36	34	39	41	21.6	20.5	57.6	54.5
合 計	219	224	263	260	123.6	117.3	342.6	341.3
	(職員総数)							

(5) 外国人雇用状況

総数 31名（EPA3名、留学生3名を含む）

(6) 職員平均年齢/平均勤続年数

拠点名（開設年度）	平均年齢		平均勤続年数	
	R5. 3	R4. 3	R5. 3	R4. 3
東久留米（H7）	53.5	53.9	8.5	8.2
日 野（H11）	44.8	43.9	9.0	8.5
新 宿（H22）	49.7	48.8	5.3	5.2
法人全体	49.3	48.9	7.6	7.3

(7) 資格取得人数 ※重複含む

	社会福祉士		介護福祉士		介護支援専門員		看護師		准看護師	
	R5. 3	R4. 3	R5. 3	R4. 3	R5. 3	R4. 3	R5. 3	R4. 3	R5. 3	R4. 3
東久留米	10	11	79	81	24	27	6	6	5	5
日 野	14	13	87	84	31	32	11	11	5	6
新 宿	4	5	25	27	8	10	7	8	0	0
合 計	28	29	191	192	63	69	24	25	10	11

(8) 理事会

開催年月日	出席者数 /7	監事 /2	決議事項
R04. 06. 06	6	2	第1号議案 令和3年度 事業報告書について 第2号議案 令和3年度 決算報告書について 第3号議案 社会福祉充実計画について 第4号議案 6月賞与について 第5号議案 役員等賠償責任保険の内容について 第6号議案 マザアス日野大規模改修に伴う福祉医療機構借入金申込について 第7号議案 マザアス新宿 借入金元利金返済猶予の延長について 第8号議案 マザアス新宿 運営規程の改定について
R04. 08. 01	6	2	第1号議案 マザアス日野大規模改修に係る入札参加条件について 第2号議案 マザアス日野大規模改修に係る予定価格について 第3号議案 マザアス日野大規模改修に係る最低制限価格の設定について 第4号議案 人事に関する件
R04. 10. 11	7	2	第1号議案 マザアス日野大規模改修に係る入札経過及び契約内容の決定について 第2号議案 職員確保のための就学資金連帯保証人の引き受けについて 第3号議案 職員給与規程の改定について
R03. 11. 29	7	2	第1号議案 令和4年度第1次補正予算案について 第2号議案 冬季賞与案について 第3号議案 職員給与規程の改定について 第4号議案 マザアス日野大規模改修に係る資金計画、担保提

			供、及び連帯保証人不要制度の利用並びに返済計画について
			第 5 号議案 返済猶予中の借入金に係る返済再開について
R05.03.28	6	2	第 1 号議案 令和 4 年度 第 2 次補正予算案について 第 2 号議案 令和 5 年度 事業計画書案について 第 3 号議案 令和 5 年度 予算案について 第 4 号議案 マザアス日野大規模改修工事請負契約にかかわる工期の変更について 第 5 号議案 人事考課に関する規程の制定について 第 6 号議案 高額契約（東久留米拠点）について 第 7 号議案 高額契約（日野拠点）について 第 8 号議案 給与規程の改定について 第 9 号議案 役員賠償責任保険の内容について 第 10 号議案 第三者委員の委嘱について 第 11 号議案 常務理事の選任について 第 12 号議案 役員及び評議員並びに役職者等の定年並びに任期について 第 13 号議案 施設長人事について

(9) 評議員会

開催年月日	出席者数 ／8	監事 /2	決議事項
R04.06.24	7	2	第 1 号議案 令和 3 年度事業報告について 第 2 号議案 令和 3 年度決算報告書について 第 3 号議案 社会福祉充実計画について
R5.03.28	6	2	(報告事項のみ)

(10) 監事監査

監査年月日	監査者	監査報告の有無	指摘事項	改善事項
R4.年 6 月 3 日	吉田 剛 我謝 悟	有	無	無

資産管理

不動産 の所有 状況		所在地	面積 (㎡)	評価額 (千円)	担 保 提 供 の 有 無
基本財産	土地	東京都東久留米市氷川台 2 丁目 416 番地 1.3.4	5204.03	1,526,900	有
		東京都日野市万願寺一丁目 16 番地 1.2	3301.85	759,000	有
		東京都日野市万願寺一丁目 16 番地 3	1090.00	212,550	有
	建物	東京都東久留米市氷川台 2 丁目 416 番地 1	3939.09	579,079	有
		東京都日野市万願寺一丁目 16 番地 1	6356.93	717,024	有
		東京都新宿区新宿 7 丁目 3-31	2946.38	337,954	有
	合計			4,132,507	

6. その他

(1) 情報公開

- ・法人ホームページ、法人広報誌、玄関ロビーに設置等の方法により公開

(2) 外部審査等

日付	項目	備考
令和4年7月	東京都 福祉保健局	文書指摘事項 (本部) 「理事会・評議員会」 ・文書による確認記録を残すこと。 ・開催通知に議案概要を記載すること。 ・理事の欠席が連続しないようにすること ・招集通知の期限を守る こと ・会計監査人再任の場合でも監事の同意記録を残すこと。 ・理事監事の報酬総額について評議員会もしくは定款に記載すること。 ・会計監査人の報酬について再任の場合でも記録を残すこと。 「会計」 ・決算書に様式名称を正しく記載すること。 ・決算付属明細書の様式修正すること

		「通所（日野）」 中重度ケア体制加算について、令和 4 年 4 月、5 月及び 6 月の 3 月間の利用者の総数において、要介護状態区分が要介護 3、要介護 4 又は要介護 5 である者の占める割合は 100 分の 30 未満であったため、保険者の指導に従い、自己負担額の返還手続きを行うこと。返還改善済み。 「通所（東久留米）」 生活機能向上連携加算に係る外部との連携を適切に行うこと。改善済み。
令和 4 年 10 月 5 日	グループホーム たまだいら 日野市 福祉政策課による 実地検査	認知症対応型共同生活介護計画書の同意欄が家族名のみであるため、利用者名も記載し、利用者に交付すること。 同意署名欄に利用者本人と家族氏名の記入欄を設ける様式変更にて改善済み。

(3) 第三者評価

受審施設・事業所名	R04	R03	R02	R01	H30
特別養護老人ホーム マザアス東久留米	○	○	◎	○	○
特別養護老人ホーム マザアス日野	◎	○	○	◎	○
グループホームひかわだい	◎	—	○	—	○
グループホームおがわ	—	◎	○	◎	—
グループホームたまだいら	—	◎	—	◎	—
グループホームつつじ	—	◎	—	◎	◎
小規模多機能ホームみなみだいら	○	○	○	○	○
小規模多機能ホームさかえまち	○	○	○	○	○
小規模多機能ホームさくら	◎		—	○	○

◎：組織マネジメント+サービス項目、○：サービス項目、—：未受審緩和適用

(4) 苦情解決件数〔第三者委員会提出件数〕

() は苦情受付件数

拠点名	R04	R03	R02	R01	H30
東久留米	7 (7)	7(7)	2(2)	7(7)	5(5)
日 野	10 (10)	12(12)	8(8)	11(11)	16(13)
新 宿	2 (2)	0 (0)	0 (0)	2(2)	2(2)

(5) ヒヤリハット件数

拠点名	R03
東久留米	77 (特養・短期入所・通所・グループホーム)
日 野	284 (特養・短期入所・通所・グループホーム・小規模多機能)
新 宿	87 (特養・短期入所、グループホーム、小規模多機能)

(6) 事故件数

拠点名	R03
東久留米	275 (特養・短期・通所・居宅・訪問・グループホーム・就労B)
日 野	323 (特養・短期入所・通所・グループホーム・小規模多機能)
新 宿	99 (特養・短期入所、グループホーム、小規模多機能)

(7) 行政に報告した事故件数 (感染症含む)

拠点名	R04	R03	R02	R01	H30
東久留米	12	12	9	7	14
日 野	14	21	33	23	36
新 宿	2	0	0	4	5

(8) 実習生の受け入れ（年間延べ受け入れ人数）

拠点名	R04	R03	R02	R01	H30
東久留米	86	92	177	101	126
日 野	339	223	142	317	256
新 宿	21	17	15	239	283

(9) ボランティア活動（年間延べ活動人数）

拠点名	R04	R03	R02	R01	H30
東久留米	1,080	938	999	2,279	2,283
日 野	785	1,303	2,239	3,641	3,894
新 宿	11	60	24	656	775

(10) 外部研修（参加延べ人数）

拠点名	R04	R03	R02	R01	H30
東久留米	18	16	13	68	91
日 野	59	25	47	155	184
新 宿	5	3	2	17	23

(11) 内部研修（実施回数）

拠点名	R04	R03	R02	R01	H30
東久留米	66	56	61	17	13
日 野	22	25	31	31	27
新 宿	19	21	18	21	37

*実践報告会含む（※個別事業ごとの研修や勉強会を除く）

(12) 外部発表

拠点名	内容
東久留米	・グループホームおがわ「歩くことは生きること」 東京都社会福祉協議会 高齢者施設協議会主催 アクティブ福祉
日野	・小規模多機能ホームみなみだいら「防災避難訓練を通じて地域住民と共に歩める事業所作り」 東京都社会福祉協議会 高齢者施設協議会主催 アクティブ福祉 ・若年性認知症総合支援センター「若年性認知症当事者への支援としての社会資源の活用」 産業医ジャーナルに執筆掲載
新宿	—

(13) 外部団体活動（理事長/施設長）

高原敏夫：理事長

役員	1	財団法人愛敬福祉支援財団理事
	2	社会福祉法人フロンティア福祉会理事
	3	東京都社会福祉協議会法人協議会副会長
	4	社会福祉法人三育ライフ評議員
	5	東京都社会福祉協議会総合企画委員会委員

松澤雅子：東久留米施設長

役員	1	東久留米市社会福祉協議会 評議員
	2	清瀬市障害支援区分認定審査会委員
	3	社会福祉法人 東京アフターケア協会評議員
	4	東久留米市内社会福祉法人連絡会幹事
	5	東久留米市民生委員推薦会委員

古谷晋：日野施設長

役員	1	日野市介護保険認定審査会	審査委員
	2	日野市社会福祉法人ネットワーク	幹事
	3	日野市介護保険運営協議会 等	委員
	4	社会福祉法人 日野市民たんぽぽの会	評議員

羽生隆司：新宿施設長

役員	1	東社協 東京都高齢者福祉施設協議会	副会長
	2	東社協 東京都高齢者福祉施設協議会	人材対策委員長
	3	すみだ日本語教育支援の会	副会長

7. コンプライアンス委員会

(1) 令和4年5月6日

東久留米拠点 特別養護老人ホームにおける虐待

(2) 令和4年7月8日

日野拠点 地域包括支援センターにおける就業規則違反

8. 事故調査委員会

(1) 令和4年7月8日

新宿拠点 地域密着型特別養護老人ホームにおける入浴介助中の事故

Ⅲ.経営状況

1. 離職率

(%)

		令和4年	令和3年	令和2年	令和元年
東久留米	全職員	8.0	11.5	11.1	11.8
	介護職員	5.0	6.2	10.6	10.3
日 野	全職員	14.6	17.1	16.2	12.7
	介護職員	13.2	12.9	12.9	11.5
新 宿	全職員	15.1	14.5	20.5	22.7
	介護職員	11.3	17.0	24.2	16.0

2. バイタルデータ（年度比較）

サービス種別	事業所名	定員	R4	R3	R2	R1	H30
特別養護老人ホーム 月平均利用率(%)	東久留米	80	97.2	97.7	96.1	95.8	97.7
	日 野	106	90.3	93.4	94.7	96.2	93.2
	新 宿	29	81.9	94.2	94.6	97.4	98.7
特別養護老人ホーム 平均要介護度	東久留米	80	4.0	4.1	4.2	4.2	4.2
	日 野	106	4.1	4.1	4.1	4.1	4.1
	新 宿	29	4.3	4.3	4.5	4.6	4.6
短期入所生活介護 月平均利用率(%)	東久留米	10	78.5	81.3	82.7	72.4	79.6
	日 野	14	57.2	54.2	54.6	51.9	63.7
	新 宿	3	48.3	62.9	52.3	85.9	88.7
介護職員比率 介護職員1人あたりの利用者数 定員ベース	東久留米	—	2.03	2.15	2.17	2.14	2.14
	日 野	—	2.18	2.18	2.30	2.36	2.44
	新 宿	—	1.30	1.79	1.77	1.70	1.73
通所介護(予防含む) 係数を掛けた延べ利用者数	氷川台	39	30.0	27.1	26.4	25.8	514.3
	大門	18	15.7	14.3	13.8	15.4	241.3
	多摩川苑	45	23.2	24.5	23.6	27.2	776.7
通所介護(予防・総合) 実利用人数	氷川台	—	11.8	6.5	4.8	2.5	0.3
	大門	—	25.1	22.0	19.9	28.5	39.8
	多摩川苑	—	10.9	11.5	17.7	28.6	28.1

認知症対応型通所介護	氷川台	12	7.2	6.0	6.1	7.6	6.7
月間平均利用人数	多摩川苑	12	4.5	4.6	4.3	4.3	4.9
配食サービス(自費含)	大門	—	10.8	12.6	15.9	20.3	22.7
日平均配食数(食)	多摩川苑	—	57.8	54.8	57.0	58.0	56.3
訪問介護サービス	氷川台	—	499.1	521.1	542.2	572.7	618.0
		—	184.9	188.8	191.4	182.4	203.3
上段:(介護)のみ(自費含)	多摩川苑	—	184.6	234.7	240.0	243.3	265.7
中段:(予防・総合)のみ		—	139.7	152.7	151.2	117.3	112.6
下段:(障害+市施策)のみ		—	8.4	10.6	14.1	12.0	18.2
居宅介護支援	氷川台	—	163.7	146.7	175.0	157.1	149.6
給付管理者数(件)	多摩川苑	—	173.0	166.6	133.9	127.3	119.8
居宅介護支援(予防)	氷川台	—	19.3	24.3	21.7	23.4	31.0
給付管理者数(件)	多摩川苑	—	30.9	27.3	29.3	32.7	35.2
地域包括支援センター	東部	—	345.6	338.3	338.0	345.5	347.4
予防給付管理者数(件)	多摩川苑	—	228.3	212.8	197.5	197.7	182.9
グループホーム	ひかわだい	9	91.6	94.7	99.5	97.9	98.7
	おがわ	18	94.4	95.0	92.8	91.3	97.4
	たまだいら	9	96.7	95.4	98.0	95.1	98.8
月平均利用率(%)	つつじ	18	93.1	96.6	93.6	96.4	99.2
小規模多機能	みなみだいら	29	27.0	28.7	27.9	23.6	23.7
	さかえまち	29	28.0	24.8	22.3	21.1	20.2
登録者数(人)	さくら	29	22.8	24.4	23.8	22.9	23.4
多摩若年性認知症総合支援	多摩	—	9.8	7.3	7.6	7.8	7.5
相談件数月平均利用率(%)		—	301.8	243.2	224.1	156.9	303.8
就労B型	1日平均	—	28	29	21	17	13
			13.2	12.5	6.9	5.2	6.2

3. 法人単位の資金収支の状況（資金収支計算書）

金額（千円）

項目	R4	R3	R2	R1	H30
事業活動資金収支差額	69,251	126,264	134,653	86,034	88,507
施設整備等資金収支差額	-114,656	-54,099	-45,145	-83,816	-58,136
その他の活動資金収支差額	-6,852	731	49,288	-6,797	-8,830
当期資金収支差額	-52,258	72,896	138,795	-4,579	21,541
法人本部	-13,590	1,380	4,833	-3,107	-67,632
東久留米	33,459	17,130	26,208	-26,636	33,943
日野	-53,194	44,021	36,084	42,914	43,341
新宿	-18,932	10,365	71,670	-17,750	11,889
前期未支払資金残高	959,661	886,766	747,970	852,549	728,201
当期末支払資金残高	907,403	959,662	886,765	747,969	749,742

4. 法人単位の事業活動の状況（事業活動計算書）

金額（千円）

項目	R4	R3	R2	R1	H30
サービス活動増減差額	14,372	61,622	49,615	-5,032	21,398
サービス活動収益	2,232,550	2,235,704	2,237,504	2,174,136	2,166,987
サービス活動費用	2,218,178	2,174,082	2,187,889	2,719,168	2,145,589
（減価償却費）	137,939	146,443	145,406	145,498	146,014
（国庫補助金等特別積立金取崩額）	-87,691	-87,153	-86,318	-86,388	-87,772
サービス活動外増減差額	4,685	6,392	7,819	6,648	9,189
サービス活動外収益	14,371	15,732	17,060	19,070	23,897
サービス活動外費用	9,685	9,340	9,241	12,424	14,708
特別増減差額	-300	0	-240	-1,209	279
特別収益	13,618	30,585	123,704	37,361	112,681
特別費用	13,918	30,585	121,944	38,569	112,401
当期活動増減差額		68,014	57,195	405	30,865
法人本部	-13,615	1,355	4,809	-900	-7,632
東久留米	33,182	8,088	185	-15,913	-4,149
日野	23,349	53,445	42,469	29,882	25,446
新宿	-24,158	5,124	9,732	-12,664	17,200

前期繰越活動増減差額	892,553	824,539	767,344	766,939	733,266
当期末繰越活動増減差額	911,311	892,553	824,538	767,346	764,132
基本金取崩額	0	0	0	0	0
その他の積立金取崩額	0	0	0	0	0
その他の積立金積立額	0	0	0	0	0
次期繰越活動増減差額	911,311	892,553	824,538	767,346	764,132

5. 法人単位の資産等の状況（貸借対照表）

金額（千円）

項目	R4	R3	R2	R1	H30
資産の部	5,360,631	5,454,533	5,497,882	5,401,884	5,394,927
流動資産	994,718	1,047,164	972,449	846,165	859,123
固定資産	4,365,913	4,407,368	4,525,433	4,555,718	4,535,804
負債の部	807,761	833,638	862,433	787,016	696,883
流動負債	182,300	191,932	184,191	202,511	193,428
固定負債	625,461	641,706	678,242	584,505	503,455
純資産の部	4,552,869	4,620,894	4,635,448	4,614,868	4,698,044
減価償却累計額	4,330,149	4,237,934	4,104,110	3,389,087	3,395,705

6. 積立金の状況

金額（千円）

施設名	積立目的	R4 度末時点の 積立金額
マザアス東久留米		0
マザアス日 野	施設設備整備・修繕目的積立	10,916
マザアス新 宿		0

7. 関連当事者との取引の内容

（該当取引なし）

8. 準拠している会計基準

社会福祉法人新会計基準

9. 地域福祉ニーズへの対応状況

事業概要	事業開始年度
介護保険サービス等における低所得者の利用者負担減免	H17
地域の単身高齢者等を対象とした見守り配食サービス等の実施	H18
地域の単身高齢等を対象とした各種相談事業の実施	H07
災害時における各種支援活動の実施	H13
他法人との連携による人材育成事業	H26
若年性認知症の方への支援	H21
認知症の方やご家族等、地域の方向けの認知症カフェ事業実施	H27
生活困窮者就労訓練事業の実施	H27

Ⅳ社会福祉法人マザアス 法人本部事務局

1. 令和4年度総括

令和4年度7月より、法人本部の事務員が減少したが、人員を補充することなくその機能を維持することに努めることとなった。これは、生産性の向上が求められる昨今の方向性と合致するものであり、法人本部から実施することに意義があるものと思われた。しかしながら、実際には他拠点の援助に支えられて運営している状況となっている。

法人本部設置当初は、「施設管理」から「法人経営」への転換を目指し、「3拠点のシステムの統合による効率化」を目指してきた。「経理会計」「勤怠給与」「介護保険システム」の統合を目論み、現在では「介護保険システム」の統合を残すのみとなった。システムの統合と併せて本部人員も充実すると予測していたが、想定とは異なる結果となっている。

また、現行の介護報酬・補助金等の体系では、法人本部の人件費等は算定されておらず、社会福祉法人会計基準による本部経理区分に属する収入はない。また、資金の用途制限もあり、本部に資金を集める難しさを実感した。

このような状況下で本部運営を行っていくために、次年度からは、「経営推進部」と名称を改め、最小限の人員、最小限の資金で運営する「小さな本部」とし、プロジェクトに応じて拠点のメンバーと協働チームを設置し、法人全体で実行していく体制へと移行していくこととした。

以下、令和4年度重点課題について報告する。

(1) 「介護保険ソフトの統一化」

NDソフト社「ほのぼのシリーズ」で統一化を図ることとした。

リースアップの時期に合わせ、今年度は東久留米の一部においてシステムの変更を進めた。

「令和5年度デジタル機器導入促進事業」の対象とするため導入時期を令和5年4月とした。

(2) 「人事考課制度の見直し」

人事考課表を見直し、評価項目の削減と評価票の再構築を実施した。

評価項目を削減することにより、評価者の負担減を図っている。

V 高齢者福祉総合施設 マザアス東久留米

1. 令和4年度総括

新型コロナウイルス感染拡大の影響は、令和4年も継続した。年前半は都内の新規感染者数は少なかったが、7月以降高水準で推移し「まん延防止等重点措置」が発出された。全職員に実施していたPCR検査においても、7月頃より毎週1～2名の陽性者が確認されるようになった。9月にはいったん落ち着いたが、11月には再びPCR検査で職員の陽性者が確認されるようになり、グループホームおがわでは集団感染となった。12月からは都内感染者数がさらに増え、年明けには減少傾向にあったが、2月に特養でも集団感染があり、終息するまで1ヶ月余りを要した。あらゆる感染対策を講じていても、新型コロナウイルス感染症の影響が続いた年であった。令和5年3月、マスク着用は個人の判断とされ、感染症法の類型変更が検討されているなど、社会情勢としてはコロナ終息に向けた動き出しも見えているが、介護施設等高リスク者が集まる場においては、十分な感染予防対策の継続実施が必要な状況である。

人材採用において、人材紹介や人材派遣に頼ることなく充足できている事は特筆に値する。介護福祉士養成校との連携により、令和4年と令和5年4月に3名ずつ合計6名の卒業生（介護福祉士）が正規職員として入職した。また、近隣他施設からの転職者（5名）やマザアス職員紹介制度による受け入れ（3名）、地域の方からの紹介（2名）など、紹介手数料のない採用機会に恵まれたことは幸いであった。

令和4年4月から中小企業でもパワーハラスメントの防止対策が義務化され、拠点においても、事業主のハラスメント防止に対する方針を明確に揭示し「パワーハラスメントアンケート」の実施や役職者研修等を行うなど周知・啓発活動を行うなど事業者として講ずべき措置を実施した。そうした中、職員からハラスメントに関する相談が寄せられ、法人本部が対応する事態となった。相談の受付方法や初動対応、ヒヤリングや面談技法等のハラスメント対応について改めて振り返る機会となった。

令和4年度は、東久留米拠点全体では前年度比でサービス活動収益は、約2,700万円の増額であった。またサービス活動増減差額は4,393万円であった。昨年比で+2,672万円と改善しており、東久留米拠点全体的に稼働率が順調に推移した結果、当期活動増減差額は本部繰入後 約3,300万円の黒字となった。

令和4年度重点課題について、下記に報告する。

（1）障がい分野での事業拡大

①成果指標

今期は事業計画では15人（中長期数値目標）を、予算設定数値では13人を目標とし事業を進めてきた。結果としては13.2人と予算設定数値を超えることはできた。

個別支援計画に基づき、サービス管理責任者を中心に一貫した支援を行うことで利用終了者が減少していることが大きな要因だと考えている。

一方で月額最高工賃の向上については、令和5年3月実績で目標の30,000円を超える利用者が1名出た。当該利用者の通所率安定と施設外就労の請負単価上昇が主な要因だと考えている。

②実施計画

支援の質を向上させる意図で、6月より手書きからOffice365を活用した記録システムを導入した。このことで記録の共有・可視化を迅速に図れるようになってきた。また、e-ラーニングシステムを活用した研修は昨年同様、毎月実施した。

自主製品の販路拡大は、①ファームドゥ食の駅所沢店、②「考えた人すごいわ」所沢店で、ジャム・ドレッシング・栗の渋皮煮などの委託販売を新規で契約することができ、販売数を伸ばすことができている。

地域企業との連携では、(株)ハイメックス(東久留米市内)の工業製品バリ取り作業を継続して受託することができている。

今後の障がい福祉部門の展開については、次年度より本格的に調査・計画に着手したい。

次年度も利用者への支援を「本人中心に」「チームで」「細やか」に進め、同時に工賃向上にも積極的に取り組んでいく。

(2) マザアス ソーシャルファームプロジェクト

「少子高齢化」と「人材のミスマッチ」等により、医療・介護分野での人材不足は深刻な状況にあり、一方でニーズは増加するため2025年における需給ギャップは、約55万人ともいわれている。

そのような状況下、フルタイム以外のワークスタイルの許容や長時間労働の改善等、多様な人材が活躍できる環境を用意する事が、優秀な人材獲得の可能性を高める事に繋がる。同時に、近年の社会問題を背景に、様々な理由で働きたいのに働けない立場にある人の就労問題に率先して取り組むことが重要である。仕事を生み出しトライアル雇用から一般就労につなげ、共に働く機会を創り出す事は双方にとって有益と考え、そうした未来を描いて継続してきた取り組みは7年が経過した。

① 成果指標

令和4年度は、東京都ソーシャルファームの認証取得を目指したが、法人として法定雇用率を満たしていない事から、申請受付に至らなかった。今後、法人全体で法定雇用率改善に取り組む必要がある。

当初トライアル雇用から、現在一般就労につながっている職員の離職はなし。任用替え等の相談には至っていない。

② 実施計画の振返り

法人内主催の初任者研修受講者2名について、実務者研修の受講済。

マザアス ソーシャルファームプロジェクトの情報は、法人として「マザアス×はたらく」特設サイトを令和5年5月に開設予定である。

(3) 認知症ケアの質の向上

①成果指標

認知症の方を対象にしたケアの質の向上のため、令和4年度は認知症対応型共同生活介護事業所である「グループホームおがわ」および「グループホームひかわだい」の全職員を対象に認知症ケアの1つである「ユマニチュード」を実施した。

上半期では、「グループホームおがわ」および「グループホームひかわだい」にて、ユマニチュードとは何か、そしてユマニチュードを実践するためのポイントとして4つの柱である「見る」「話す」「触れる」「立つ・歩く」についての研修会を実施した。下半期では、「グループホームおがわ」の職員を対象に「ユマニチュード」の4つの柱を用いて実践した振り返り(成功した例と失敗した例)を行い、職員間で共有を図った。また4つの柱をさらに組み合わせた方法の研修会を実施した。

②実習計画の振り返り

「グループホームおがわ」では、全職員を対象として学びと実践の振り返りを行う事ができたが、「グループホームひかわだい」では振り返りが出来ていないため、令和5年度で管理者を中心に振り返る機会を作る必要がある。また通所介護課および生活介護課でも認知症の方をケアしているため、令和5年で研修会の開催を予定している。

また「グループホームおがわ」では、令和4年度の研修で終わることなく、定期的に振り返りができる機会を設けると共に新人職員対象の研修として取り入れていく方向。

(4) 「人材育成」(a)外国人等の介護職員初任者育成

(b)管理者・役職者の研修充実

① 実施計画の実施状況

(a) 外国人等の介護職員初任者育成

令和2年度にアルバイト採用した留学生のうち、令和4年4月に3名、令和5年4月に3名が正規職員として入職。6名は経過措置にて養成課程修了時介護福祉士取得(1名は国家試験合格)。特定技能1名。初任者研修3名、実務者研修1名。旧ホームヘルパー2級1名。OJTの他、定期的に受験対策勉強会を実施

(b) 隔月で管理者会議を開催し、事業課題に対する情報共有、意見交換を行った。

リスクマネジメント、運営規定の整備、契約と重要事項説明書、会計(予算と数値指標)労災申請手続き、ハラスメント等について必要事項の確認を行った。

年度末に、運営規程に必要な内容が入っている相互確認を実施した。

2. 特別養護老人ホーム マザアス東久留米／短期入所マザアス東久留米

令和4年度の特養入居者の死亡退所者は26名で前年度に比べて5名増加した。

特に令和5年1月までは稼働率は比較的高位で推移していたが、2月に新型コロナ感染クラスター発生により1か月で6名の退所につながった。コロナ感染症が落ち着くまで1か月を要したこと、その間新規入所者面接等を自粛した影響で、稼働率が一気に低下した。クラスターが落ち着いた3月に入ってから徐々に入所を進めているが、年度内にベッドすべてを埋めきれず平均稼働率は昨年度よりも低下することとなった。

ショートステイも前述の新型コロナ感染拡大により約1か月間にわたり入所制限を行ったこともあり平均稼働率は昨年度を下回ることになった。特養待機者数がここ数年減少傾向にあり、それに伴い退所日を決めずに特養入所待ちでショートステイ利用をされる方も減少傾向にあり稼働率が安定しない要因の一つとなっている。

	特養	ショートステイ
利用定員	80	10
延べ利用者数	28,381 (28,519)	2,864 (2,971)
1日平均利用者数	77.8 (78.1)	7.8 (8.1)
稼働率	97.2 (97.7)	78.5 (81.3)
稼働日数	365	365
平均介護度	4.0 (4.2)	2.8 (2.9)
1人1日当り単価	13,882 (13,305)	12,562 (12,452)
総収入：補助・寄附除	394,013 (379,460)	35,980 (36,996)
常勤換算職員数	60.3 (54.4)	***

カッコ内は昨年度の数字

3. デイサービスセンター マザアス氷川台

4年間の月毎の稼働率に注目し評価を行ったところ、地域ニーズの高い入浴業務の受け入れ体制の見直しに注力した2022年3月頃から稼働率が上がっている事が分かった。それ以前までは受け入れ定員数（機械浴2、中間浴19人）入浴業務職員体制（午前4人、午後2人）を決めていたが、3月以降、入浴業務職員体制（午前4人、午後3人）の見直し、浴室の環境整備、利用者のADLの評価を行い、快適な入浴形態の提供を行い、効率的に業務が回るよう改善し入浴ニーズに応えられるようにした整えた事で4月頃より若干ではあるが稼働率の上昇がみられた。5月～6月に掛けては一時職員の離職により稼働率、中重度率が停滞したが職員の体制が落ち着きサービスに注力する事が出来、7月頃より入浴受け入れ体制の見直しも相まって、稼働率が向上した。上半期は一時期落ち込んだ時もあったが最終的に月平均稼働率29.4%だった。下半期はコロナ第6波等もあったが、体制が整っていた事もあり例年気温の低下に伴い体調不良や利用控えが続く傾向にあるなかで1月現在まで30.6%と上半期を上回る稼働率となっている。

次年度も安定してサービスが提供できるよう目標として2点に注力していきたい。

1点目は、今年度は例年になく異動、新規採用職員（無資格、未経験）が多かった為、一時期一部のベテラン職員に業務が偏る事があった。次年度は職員の力量を細かく把握し適時コーチング、研修を通じ全体的に職員の力量をあげサービスの提供強化につなげたい。2点目はサービス提供環境を整えたい。様々なご利用者がマザアスでの入浴を希望してるが、提供機器が限定されている為、ニーズに応えられない現状がある。そこで新型浴槽を選定し入浴提供環境を整えたい。現在の機器の中で機械浴槽（臥床）は重度の方を対象としており現在一日使用頻度が低い状態となっている。

座浴、臥床浴等柔軟なニーズに応えられる新型機械浴槽を導入し利用ニーズに応えたい。次に記録環境を早急に整えたい。通所では従来の紙媒体での情報のやり取りがあり、専門職それぞれで記録を残しており、同じ内容の記録が点在している。その為、確認業務に時間を要している現状がある。現在請求業務等で使用している「ほのぼの」を使い必要な記録を集約するなど業務の効率化に繋げたい。

機器導入整備に費用がかさむ事が考えられるが、将来的なニーズの拡充、人材難による業務効率化を見据えて次年度早期導入を考えながら準備していく必要がある。

4. 認知症対応型デイサービス湧泉の郷

バイタルデータでは、平均稼働率7で推移している。感染症第7波により一時的に職員が減少し、対応する職員によってサービス内容が変動する事があった。次年度はサービスを提供する職員体制の確保と育成に力を入れて行く。2月、地域のコロナ感染症感染拡大により休止する事業所が出たため、利用者の振替利用受け入れのため利用日を増日した。臨時的な利用により8.3と稼働率が上昇、結果年度末まで稼働率は維持し3月は7.5となった。急な稼働率の上昇によりご利用者が生活する空間が手狭となった為、ご利用者落ち着いて生活できるよう環境整備を行った。次年度は、ご利用者にとって居心地の良い環境作りを行っていくと共に、引き続き認知症予防として学習療法を行っていく。また新たな取り組みとして湧泉側にあるテラスを整備、活用し園芸療法を取り入れ、ご利用者、職員がいきがいや楽しみが持てるスペースとする。園芸療法は植物を育てることによって身体や心、社会性に良い効果をもたらし、損なわれた機能を回復することを目的としているため、利用者にとって良い効果が期待できる。楽しむだけでなく、スタッフの知識や関わり方も非常に重要になって来るため、利用者、職員にとって良い効果が期待できる。

	介護・予防	認知症対応型	合計
利用定員	39	12	51
延べ利用者数	9,286(前年比+832)	2,223(前年比+358)	11,590(+1190)
1日平均利用者数	30人(+2.8)	7.2人(+1.2)	37.2人(+4.2)
稼働率	76%(+6.4)	59%(+8.4)	67.0%(+2)
稼働日数	310	310	***
平均介護度	介護1.9 支援1.7	介護2.1	介護2.0 支援1.75

5. デイサービスセンター マザアス大門

前期は要支援の新規利用が増えて徐々に稼働率が上がった。コロナの影響で3年間外出を控えた為筋力が低下している方から筋力トレーニングを希望する方が多かった。散歩コースがある、マシントレーニングを実施している、体操を日中何回も実施している等大門では要支援の利用者が選択する要素を持っていた。

3年間クラブ活動がなくなった為、他者と会話がしたい、書道をやりたい、創作活動して手を動かしたい、歌が歌いたいなどの希望に備えて楽しめるプログラムを実施していたので新規利用を増やすことができた。職員のピアノ演奏、ギター演奏、歌、パステルアート、囲碁、買い物レクで「楽しかった」という利用者の声も多かった。

7月、8月は不調の利用者が増え入院、入所、入浴が出来る他施設に移行などで終了が続いた。9月は要介護半日の利用者の1日利用への変更、増日に力を入れ10月は91%の稼働率を達成出来た。令和5年2月、3月になって要介護の利用者は入所の為、利用終了が多くなっている。入浴、車いす対応利用者、排泄介助利用者の受け入れが出来ない大門では要支援利用者の増加傾向が見られている。要支援から要介護に介護度が上がる利用者は入浴対応の他施設に移行される。利用を継続される利用者は支援の時と同じく半日利用を希望されるので稼働率が維持出来ても利益に繋がりにくいのが大門の課題だ。要支援の新規登録者は増え令和5年3月からは要支援登録者が要介護登録者と逆転している。

今年度は大門の強みの散歩、楽しめるプログラムの企画にもっと力を入れて満足度をアップさせ要介護登録者数を増やしていきたい。3月からは大門便り、大門インスタで宣伝を工夫している。

	介護・予防
利用定員	18名
利用者数(延べ)	4,790名(+458)
1日平均利用者数	15.7人(+1.6)
稼働率	87%(+9)
稼働日数	306
平均介護度	介護 1.46 支援 1.64

6. ヘルパーステーション マザアス氷川台

過去3年間の稼働状況の推移をみると、令和2年度は新規相談55件、平均稼働時間740時間、令和3年度は新規相談27件、平均稼働時間700時間、令和4年度は新規相談件数45件、平均稼働時間は684時間だった。

今年度もコロナ禍という特別な状況下ではあったが、サービスにつながったのは37件で、昨年の24件よりは増加し、相談が来た際ほぼサービスにつなげることができた。昨年と同様にサービス提供責任者の入れ替えがあり10月・11月に新任のサービス提供責任者が着任した。サービス提供責任者着任後積極的な新規利用者の受け入れを行い、12月以降は月平均で6名程の新規受け入れを行ってきたが、毎日型の利用者様のご逝去等があり、全体的な時間数の増加には繋がらなかった。

ヘルパー不足によりサービス提供責任者が代行に入ることが多くなっており、サービス

提供責任者の業務負担がますます増えている。特に、朝・夕・土・日は、入れるヘルパーがない為、サービス提供責任者が残業にて対応している状況にある。

令和5年度で70歳になる登録ヘルパーも数人おり、仕事を減らしたいと申し出ているヘルパーもいる為、稼働時間を維持していくためには人材の確保が必須であり、早急な課題となっている。

介護給付			予防給付		単価（円）		総収入 （千円）
平均利 用者数	月間訪 問件数	年間訪 問件数	月間訪 問件数	年間訪 問件数	介護 （回）	予防 （月）	
16.5	572.9	6,875	196	2,352	3,284	3,360	32,921

7. 居宅介護支援事業所 マザアス氷川台

令和4年度は主任ケアマネ2名、ケアマネ4名の6名体制で業務を行った。令和4年度は昨年に続き、職員間のスペースを確保、定例会議はウェブでの開催としたほか、利用者訪問時には手指消毒、マスク交換等感染予防につとめたが、職員内で罹患者が発生。しかし、出勤者で在宅療養中の職員をフォローし、滞りなく業務が行えた。この経験は感染症のBCPにつながると実感している。

実績としては、介護、予防合わせて2214件、1か月平均184件となり、数値目標をクリアできなかった。要因としてはケアマネジャーを増員したが人材育成のため、利用者数を増やすのに時間がかかってしまったこと、新規でガン末期などターミナル期の利用者の受け入れが多く、新規の受付よりサービス終了の方が大きかったと考えられる。

今後も、社会福祉法人として、特定事業所加算を取っている事業所として、地域からの信頼に応え、いつでも包括支援センターからの困難ケースを受け入れる体制を整えていく。事業所内でのリ・アセスメントシートを活用した事例検討会を通してスキルアップを図るとともに、地域のケアマネの資質向上にも貢献していきたい。

年間請求件数		平均単価（円）		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価（円）	総収入 （千円）
介護	予防	介護	予防			
1,977	237	17,913	4,540	11	4,180	36,490

8. 東久留米市東部地域包括支援センター

地域包括支援センターの収入のほとんどは東久留米市役所からの受託収入と要支援者への予防プラン作成料となっている。令和4年度は予防プランが増加する一方で居宅支援事業者への再委託件数は減少しており、この傾向はここ数年来継続している。

高齢者の総合相談対応や要支援者の介護予防支援はもとより、地域の自助・互助のしくみを整備するための以下の事業を実施している。認知症対策関連として「認知症サポーター養成講座」「認知症サポーターフォロー講座」「認知症家族会」を開催している。東部地区の小学校全校でサポーター養成講座を開催した。コロナ対策で職員人数を減らした上で、伝えるポイントを変更するなど工夫しながら講座を行った。

地域のケアマネジャー支援として「地域ケアマネ懇談会」「ケアマネサロン」の開催。地域づくりの取り組みとして「地域ケア個別会議」「第二層協議体」「地域見守りネットワーク会議」などを実施した。

市内の包括の中で東部は人口のわりに虐待・困難ケースの件数が多いことに加えて本人自身の問題の他、家族の精神疾患など更に対応が難しくなっている。コロナ禍で職員同士の情報共有が制限される中、ズームミーティングを活用し、情報共有に努めるようにしている。今後も、より働きやすい環境作りを継続し、利用者・地域住民の為に包括を目指していきたい。

受託収入 (千円)	予防プラン 請求件数	うち、 再委託件数	予防プラン 単価 (円)	総収入 (千円)
40,230	4,147	1,258	4,600	60,970
40,139	4,049	1,390	4,600	59,628

下段は R3 年度

9. 就労継続支援 B 型事業所

今期は事業計画では中長期数値目標（15 人）を、予算設定数値では 13 人を目標とし事業を進めてきた。結果としては 13.2 人と予算設定数値を超えることはできた。個別支援計画に基づき、サービス管理責任者を中心に一貫した支援を行うことで利用終了者が減少していることが大きな要因だと考えている。

一方で月額最高工賃の向上については、令和 5 年 3 月実績で目標の 30,000 円を超える利用者が 1 名出た。これは利用者本人の日々の積み重ね（欠勤しない、請負先からの評価など）が最大の要因である。

支援の質を向上させる意図で、6 月より記録システムの見直しをした（手書きから Office365 を利用）。このことで記録の共有・可視化を迅速に図れるようになってきた。また、e-ラーニングシステムを活用した研修は昨年同様、毎月実施した。

自主製品の販路拡大は、①ファームドゥ食の駅所沢店、②考えた人すごいわ所沢店で、ジャム・ドレッシング・栗の渋皮煮などを新規で契約することができ、販売数を伸ばすことができた。

地域企業との連携では、（株）ハイメックス（東久留米市内）の工業製品バリ取り作業を継続して受託することができている。

利用者への支援をチームとして、細やかに進めることが肝要であることを常に意識しながら、工賃向上を目指し事業を進めていく。

	1 日平均利用者数	サービス活動収益
令和 4 年度	13.2 人	33,927,417 円
令和 3 年度	12.5 人	31,999,351 円

10. グループホームひかわだい

ひかわだいは、介護技術や知識の標準化を図るため、スタッフミーティングの時間を利用して、職員のスキルアップのための研修を行った。また、ミーティング開催日前より議題を募り、具体的な提案を事前に考え会議に参加し、業務改善や利用者サービスの質の向上、職員間で意見交換を行なった。職員の資格取得支援を進め、今年度2名の職員が「介護実務者研修」を修了している。

新型コロナウイルス感染対策を講じ、11月よりボランティアの受け入れを始めている。毎月2～3名のボランティアが来所されている。ボランティアを通じ、入居者の社会交流の機会となっている。また、ホーム内で楽しめるレクリエーションや行事、焼きそばやどら焼きなどを職員と一緒に調理する機会を設けた。

統括・今後の課題としては、令和4年度はご利用者の入退去が多く、稼働率も93.5%と目標数値を下回る結果となった。そのため新規入居者の確保や退去から入居までの期間が空かないよう、定期的に入居申し込み者に向けたアプローチを行うよう努める。またご利用者の状態が変化した際には、個々の状況に合わせた柔軟なサービスの提供も行う事ができるよう努める。また、新型コロナウイルス感染の予防と発生時の対応についてBCPを基にシミュレーションを継続し備えていきたい。

11. グループホームおがわ

令和4年度も昨年度に続き、ご利用者の入退所の多い年であった。特に看取り介護状態から退所になるケースが多く稼働率に大きく影響した。また新規入居があるとすぐ退所が発生し、それが繰り返したことで、入居者の選定が難航し、新規問合せが少ないことも重なり空床期間が長くなった。令和3年度は、市内の地域包括や近隣病院に空床情報を流すなどの対応を行なった以外に「みんなの介護」に登録を年度末には待機者数も5名程度確保はできているが、家族は市内在住でもご本人が県外というケースが多く、コロナの新規感染者数の増加により、直接ホームに来所しての体験入居や面談などを行う事がほぼできず、1件の新規入居を受け入れるまでには時間がかかる結果となり、令和3年度は稼働率が95.0%と今年度の目標数値に満たない結果となった。そのため従来通りの対応ではなく、with コロナという現状を踏まえた面談の方法や入居申込者の取り巻く環境の変化にも柔軟に対応する必要性を感じた。また災害時を想定した防災マニュアルの整備や防災訓練を事業目標に挙げ、備蓄用品の整備以外に大規模災害におけるBCPの策定やそれに付随する避難訓練（想定訓練）の実施を行い、職員育成のためのホーム内研修の実施や長年実施ができていなかった「ホーム便り」の復活を行う事ができた。その他にボランティアの受入れの強化を目標に挙げていたが、「社協だより」に募集の掲載をしてもらっても、新型コロナウイルス感染拡大の防止により受け入れをする事が出来ない状態が続いた。総括・今後の課題としては、現在も空床が1件続いている状況であるため、入居受け入れ方法の見直し（オンラインの活用やホームの様子を録画し、申込者に動画を送るなど）をする事で速やかに入居ができるよう進めていく。また待機者人数を確保するだけではなく、その後も入居申込者とつながっていけるよう、定期的な連絡な近況確認に努めていく。

グループホーム	ひかわだい	おがわ
利用定員	9	18
利用者数（延べ）	3,071	6,379
1日平均利用者数	8.41	17.5
稼働率	93.5	97.1
稼働日数	365	365
平均介護度	1.6	3.1
単価（1人1日当り）	14,758 円	14,622 円
総収入（補助・寄附除）	45,856 千円	94,879 千円
職員数（常勤換算）	8.9	17.3

12. 地域公益活動

(1) サロン活動など

平成 20 年度から継続してきた「マザアス健康体操」をはじめ、「バสดライブ」や「オレンジカフェ “和”」「歌声マザアス」「トークサロン」「来所給食」等の活動は、新型コロナ感染症感染拡大予防のため、令和 4 年度も事業を休止していた。

(2) 中間的就労の場を提供する活動

「生活困窮者就労訓練事業」「はたらくサポートとうきょう」などの事業については、新型コロナ感染症も懸念されたためか相談自体も少なく、新規受け入れは無かった。

(3) 地域関係者とのネットワークづくり

地域との交流イベントやボランティア活動も昨年度に引き続き自粛したが、毎年近隣自治会と合同で開催してきた「総合防災訓練」については、密にならないよう会場設定し、再開した。

日時：令和 4 年 11 月 11 日（金）14：00～16：00

場所：マザアス東久留米全館

参加者：東久留米消防署、門前自治会、下山親睦会、氷川台二丁目自治会

マザアス東久留米職員

内容：総合防災訓練、新型コロナ感染予防のための情報提供、備蓄物品の配布など
また、関係機関や地域自治会と共に例年実施してきた「大規模災害発生時の総合訓練」については、コロナ感染症の発生があったため、施設内関係者だけの開催となった。

VI高齢者福祉総合施設 マザアス日野

1. 令和4年度総括

前年度から引き続き、新型コロナウイルス感染症の影を、より強く意識しながら経過した1年であった。特別養護老人ホームにおいて、前年度発生したクラスターは、1度のみであても大きなダメージを残したが、それが本年度は2度にわたり発生した。いずれにおいても、従来と同様に、全ての職員の協力により、窮地を乗り越えた。しかし、利用者及び職員の感染状況は前年度よりもさらに深刻さを増した状況であり、多くの傷跡を残した。ウイルス自体も変容し、社会の受容度や対応も変化する。ハイリスク施設故になすべきことを遂行しつつも、変化を見据えながら、新しい日常を取り戻す模索を続けることが今後必要となる。

我々の事業の根幹をなす、人材の課題に対して継続的に取り組みを進めている。採用環境が厳しさを増す一方である中で、確保、育成、定着の各段階において対応を進めた。日野市生活援助型スタッフ研修受講者を雇用し、介護職員初任者研修の受講、介護福祉士受験に至るまでのプロセスを想定しているが、非常に多くの時間がかかる取り組みであり、早々に成果は得られない。また、無資格未経験の入職が多いことに鑑み、数年来基礎的な研修に軸足を置いて内部研修を実施している。熟練者も含め、基本を繰り返し学ぶことは定石ではありながらも、教育課程や実務経験がそれぞれ異なる大勢の職員を、一定の基礎レベルまで導くには、繰り返しを続ける他ない。そして、日野事業所の組織を今後発展させるための大きな脆弱性として、当法人での就労期間から見る中堅職員の薄さがある。現場を中心に支え、次を担う重要な存在である中堅職員を育成するためには、上記の獲得から定着、そしてそのための育成が必要と認識し取り組んでいる。つまりは、いずれの取り組みも非常に時間がかかる。

今年度の離職率は、日野事業所全体で14.6%と前年度比で若干低下した。ものの同介護職員全体で13.2%とこちらは若干の上昇があった。離職者に占める勤続3年以内の職員は43.3%とここ数年で最も低い数値となった。

人材の育成、定着は時間がかかるが故に、現状を分析し、長期的な目標を持ち、諦めず辛抱強く取り組みをこれからも続ける。

令和4年度重点課題について、下記に報告する。

(1) 外国人職員者の受け入れ態勢の構築と受け入れ、継続的就労へのサポート

①総括

EPAについては、前年度の初回受け入れから引き続き、サポートチームを中心に準備、受け入れ、支援を行った。既に1度受け入れの流れを経験していることにより、各人や部署が概ね勝手を承知していることもあり、スムーズに進めることができた。しかし、各個人に発生する体調不良や突発的なアクシデント等、その時々状況に応じ、各サポートチームメンバーがきめ細やかに寄り添い、支援をしていることによる効果が非常に大きい。

また、当年度は、新たに特定技能に基づく職員の受け入れを行った。新たな在留資格に基づく就業であったが、こちらについてもサポートチームのメンバーを中心とした活動により、受け入れ、就労継続につながられた。

②実施事項

A 就労中EPA職員

通学及びプライベートレッスンによる日本語及び介護の知識習得を継続した。就業中のOJT及び能力評価により、担える業務やシフトの範囲が広がった。生活面ではおおむね自立しているものの、体調変化や突発的なアクシデント等には状況を整理し普段よりも手厚くサポートする必要性が高まり、サポートチームメンバー内で役割を分担しながら対応にあたった。

B 就労開始EPA職員

就労中EPA職員の際と同様に、日本国内研修時からメールでのコンタクトを開始し、就労イメージの醸成や関係構築を行った。当該職員は、研修期間の違いから日本語能力に不安を持っていた為、日本国内研修期間中に、施設が手配した日本語講師により、オンラインレッスンを行った。また、修行開始後、通学開始までに時間が空いたため、その間においても日本語レッスンを構築し、通学を続けた。

C サポートチーム

マッチングから就労継続まで、一連の流れを実体験したことで、メンバー間で概ね共通の認識が醸成できた。それにより、各メンバーが求められる役割を意識し、従来にも増して主体的な行動が促進され、サポート力が向上した。それらにより、チームとしてのミーティングの必要性は減少したため、頻度を落とした。但し、通常業務に加え、定期的及び突発的に発生する支援の負担もあるため、今後はサポートチーム以外の職員でも支援ができる体制整備が必要になると考えられる。

③成果と今後の課題

サポートチーム編成の目的は、「外国人介護労働者が就労し続けられる文化、体制等の礎を構築する」これに鑑みると、EPAの継続的な受け入れと定着、成長に加え、新たな在留資格による職員の受け入れ等、着実に目的を達成しつつある。

（２）通所介護事業所（一般型及び認知症対応型を言い、以下同様）の経営の安定を図る。配食事業の業務を確立する。

①総括

令和一年度以来の経営安定化に取り組んだ。利用者および新規利用者の高齢化と重介護化による他施設移行、ショートステイ利用の増加は定着しているため、取り下げ者の増加は歯止めが利かない状況。見学、新規獲得数は格段に改善したが取り下げ者がわずかに上回る結果となった。

②実施事項

コロナ禍でとん挫していた居宅介護支援事業所及び包括支援センターへの訪問を１２月から再開。市内４４か所の居宅の内３４か所、包括支援センター９か所のうち７か所を訪問した。

新規獲得者及び取り下げ者は以下の通り。

- ・新規獲得者（R1年度 61名・R2年度 42名・R3年度 24人・R4年度 52人）
R3年度＜R4年度
- ・取り下げ者（R1年度 57名・R2年度 55名・R3年度 35人・R4年度 53人）
R3年度＜R4年度

配食業務については、前年度の懸案事項であった配食スタッフの確保については紹介や、通所の送迎スタッフの兼任などで充足することが出来た。

③成果

１２月からと営業の始動は年度後半となったが対面で実際のサービス内容と設備スタッフのスキルなどをご説明し、年明けの２月からの見学、３月の７名契約に結び付けることが出来た。

配食事業についてはかねてより事業縮小もしくは終了も視野に入れていると伝えられている。拠点にとっては収入源となっているので、継続できるように今後も安否確認の必要性和、対面配達の実績を積み上げていく。

（３）日野（万願寺）施設における建物設備の大規模改修への計画

①総括

日野の施設は２３年を経過し、今後２０年以上施設運営を保つためには建物躯体および各設備の改修および更新が必要である。躯体などの外部面と設備などの内部面において改修の必要度を調査し、東京都の大規模修繕補助金や借入金を活用して具体的な改修計画を進めていく。

②実施事項

今年度は、まずは法人理事会にて入札等を実施し、施工業者選定を行った。その後、コロナの影響もあり、現場調査に時間がかかったが、設計業者および施工管理業者と具体的な計画を策定し、行政等と補助金申請を進め、また福祉医療機構との借入金の申請手続きを無事に進められた。

③成果

年度末には近隣への挨拶回りを行い、改修計画の確認や職員への説明を行い、施工業者作業員用の事務所や資材置き場を設置した。

次年度早々には足場組みを開始し、その後外壁等の洗浄補修からスタートしていく計画である。また、ご利用者の生活への影響を可能な限り少なくしながら、改修を進めていきたいと考えている。

(4) リスクマネジメント体制の再構築

①総括

当初、新たな人材配置に伴う組織的な対応を見込んでいたが、当該予定が変更となったため、組織体制の整備等の全体的な取り組みについては見送った。結果、必用最小限の取り組みに留まった。

②実施事項

A BCP関連

従来からBCPは整備されていたが、状況に応じた見直し及び各種訓練については実施が出来ていなかった。当年度はそれらについて進めるべく計画をしていたが、十分な対応には至らなかった。避難時要支援者名簿の作成や福祉避難所確保の関係から、日野市においてBCP策定及び避難所開設訓練支援に関する事業があったため、そちらを活用し、水害に関するBCPのレビュー及び図上訓練について実施できた。併せて当該訓練において、福祉避難所開設における課題抽出にも至った。

B 感染症関係

新型コロナウイルス感染症については、従前から対応指針を整備し運用をしていた。今般、当該指針に準拠する形で感染症BCPとして発行した。しかし、新たな考え方や対応方法等、刻々と変わる内容に更新が追い付いておらず、更新について今後の課題となる。

D 働きやすい職場づくり

ハラスメント防止等に関する研修は、全職員を対象として外部講師を招き、開催した。他、東京都社会福祉協議会が主催するハラスメント対策研修について、管理職を中心に受講を進めた。

③成果

確固たる体制を構築し、組織としてリスクマネジメント体制を固めることを目的に取り組んだが、非常に不十分な結果となった。BCPについては義務化にもなるため引き続きレビューを進めると共に、社会福祉法人の役割として福祉避難所の運営についても機能するよう準備を進める。

2. 特別養護老人ホーム マザアス日野

令和4年度（2月末時点）の年間平均稼働率は90.19%。コロナ感染症の対応のため1床空床しているため、それを含めても91.05%。いずれにしても目標としていた97%には達成していない。原因としては、コロナ感染症の発生により入所手続きが滞り、その間に退所が続き稼働率改善までに時間を要していることが大きい。また当施設だけではなく、市内特養、老健施設などにもコロナ感染症が発生したことで待機者が他施設に入所することが多数発生し、待機している方の入所までの日数が増加していることも要因のひとつとなっている。今後は感染発生の可能性も踏まえ、早期に入所が行えるよう手続きを継続して進めていく。

3. 短期入所生活介護 マザアス日野

令和4年度の年間平均稼働率は57.4%。感染症対応のため2床空床としているため、実質的な稼働率は66.6%。目標としていた72%は達成出来ていない。令和4年度には2度コロナ感染症によるクラスターが発生し、一時的に利用を控えて頂いた経緯がある。また継続的に利用されていた方が逝去されることや施設入所となることがあり、新たな利用者が増加している。今後も継続的に利用される方と案内し、やや長期に利用される方の受け入れも含めて、稼働の向上と安定を目指し取り組みを進めていく。

	R4 特養	R3 特養	R4 ショートステイ	R3 ショートステイ
利用定員	106 名	106 名	14 名	14 名
利用者数（延べ）	35,645 名	37,189 名	2,914 名	2,766 名
1 日平均利用者数	97.7 名	101.9 名	8.0 名	7.6 名
稼働率	90.3%	93.4%	57.2%	54.2%
稼働日数	365 日	365 日	365 日	365 日
平均介護度	4.1	4.1	2.9	2.8
単価（1 人 1 日当り）	13,154 円	12,923 円	13,022 円	13,000 円
総収入(補助・寄附除く)	468,905 千円	480,599 千円	37,948 千円	35,958 千円
職員数（常勤換算）	72.8	74.4	5.4	5.4

4. デイサービスセンター マザアス多摩川苑

令和一年度以来の経営安定化に取り組んだ。12月から訪問営業を再開。市内44か所の居宅の内34か所、包括支援センター9か所のうち7か所を訪問。12月からと営業の始動は年度後半となったが対面で実際のサービス内容と設備スタッフのスキルなどをご説明し、年明けの2月からの見学、3月の7名契約に結び付けることが出来た。

職員配置は、看護師常勤1名、非常勤1名の2名体制とした。介護スタッフについては4月1日付けで正規職員6名、非常勤職員6名。3月1日付けで正規職員6名、非常勤職員6名、人員配分はほぼ適正化されているが、利用者数の改善が見られないため、0.5～1名の過配置となる日もある（中重度体制加算取得のために80h/wを確保しているが、さらに60h/wほど余剰である）これについては利用者数が目標値に近づくことで相殺できる。平成30年4月と比較すると、当時はプラス150時間～160時間余分に確保されており、単純に考えて2名、利用人数が当時から2/3に減少したことを配置人数に考慮させるとすれば、ほぼ3名分の配置減になっている。業務内容の見直しと統合により、セクションを越えて、それぞれの業務をフォローし担い合う連携体制が定着している。送迎についてはすべてのセクションで担い、認知症対応型の利用数が増加した場合も一般型のスタッフがシフト内で臨機応変に応援に入り、業務を担う体制が定着した。

事故件数については昨年度を下回ることが出来た。

	R4 一般・ 総合事業	R3 一般・ 総合事業	R4 認知症 対応型	R3 認知症 対応型
利用定員	45	45	12	12
利用者数（延べ）	6,798 名	7,907 名	1,462 名	1,484 名
1日平均利用者数	21.7 名	25.3 名	4.7 名	4.7 名
稼働率	48.2%	56.1%	38.9%	39.5%
稼働日数	313 日	313 日	313 日	313 日
平均介護度	2.1	1.8	3.5	3.7
単価（1人1日当り）	10,481 円	9,454 円	14,290 円	13,910 円
総収入	71,252 千円	74,758 千円	20,892 千円	20,643 千円
職員数（常勤換算）	13.0	12.6	2.9	2.9

5. ヘルパーステーション マザアス多摩川苑

年度途中でサービス提供責任者の交代あったが、ヘルパー会議は集合型にて8月・12月を除き、年10回実施されている。ただし、技術指導や全員が参加できるものにはなっていない。11月より特定事業所加算の算定向け動き出したものの算定要件の確認に留まり、要件をクリアするための具体的な体制検討や整備には至っていない。給与計算やサービス提供前の留意事項伝達など、現状の請求ソフトの対応内容など手間を省いた方法の模索が必要。技術指導を目的とした定期的な会議も、どのような技術、指導するための準備など具体的な検討を進めていく必要がある。

6. 居宅介護支援事業所 多摩川苑

常勤5名と2名の非常勤で合計7名のスタッフで、今年度は最終的に200名ほどの利用者を担当している。入所や入院、死亡者もあり、終了者が多くある中で、徐々に利用者を獲得できたと思う。特定事業所として数多くの勉強会を開催しケアマネのスキルアップを図った。他事業所と事例検討会を開催し、リモートで会議に参加したり、研修を受講したりと、コロナ禍が続き、例年とは違うことに右往左往した部分もあったが、今年度は包括や市にも参加していただいた会議もあり、各ケアマネもスキルアップできたと思う。しかしながら、ケアマネの資質を問われることがあり、いかに人材育成が難しいかを再考した年でもあった。

次年度も週に1回のケアマネ会議(利用者の状況を報告し、事業者内で共有する会議)、月に1回の居宅会議(施設長、総務課長へ進捗状況を報告)、勉強会(各ケアマネがテーマを決めての発表や事例検討)は引き続き実施し、ケアマネ各自の支援技術の向上に努めていく。人材教育の面で気働き、気遣いのできるケアマネを育成したいと強く思っている。

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査 年間件数	訪問調査単価 (円)	総収入 (千円)
介護	予防	介護	予防			
2,084	372	13,117	4,355	39	4,400	36,476

介護給付			予防・総合事業		総収入 (千円)
平均 利用者数	月間 訪問件数	年間 訪問件数	月間 訪問件数	年間 訪問件数	
25	160	2,476	132	1,662	16,255

7. 日野市地域包括支援センター 多摩川苑

今年度も新型コロナウイルス感染症への対策を継続しながらの業務遂行を求められる年だった。地域の活動は未だ再開できていないものも多い中、地域住民から活動の場を求める声は直接的、間接的を問わずに大きくなってきていると感じている。多摩川苑ではコロナ禍になってから地域住民に対してのアンケートの実施や自治会、民生委員、社会福祉協議会、地域のサロン等との協働を通じて地域のニーズ把握に努めてきた。把握された情報を元に分析を行った結果、休止中のサロン等の主催者と協力して再開を支援していくことは当然とし、さらには地域活動の少ない地域に新しい社会資源を創出することも必要であるとの結論に至った。そこでマザアス日野で音楽療法を担当している音楽療法士に相談、さらに民生委員を通じて上田自治会とも相談することで新しい社会資源として「音楽療法士が行う懐かしい歌を歌おう会」を創出する活動が動き始めた。令和5年度はこの社会資源を地域に定着させるための取り組みを部署の目標として取り組んでいく。

部署内を見ると年度途中に管理者の交代があり、人員欠如の状態が続いたことで職員一人一人にかかる業務負担が大きくなった年だった。その中で各職員が福祉、医療の専門職として介護予防ケアマネジメント業務、総合相談支援業務、権利擁護業務、包括的・継続的ケアマネジメント支援業務の基本業務に加え、地域包括ケアシステムの実現に向けた地域作りに取り組んでいる。令和5年度初めには再度の管理者交代を予定しているが、4月中には職員の補充も叶い、徐々に業務量のバランスは改善されると思われる。

年度	受託収入（千円）	指定介護 予防プラン （件）	総合事業 （件）	委託件数 （件） 総合事業含む	総収入 （千円）
R4	30,937	1,774	925	849	41,262
R3	31,540	1,613	928	796	40,626

8. グループホーム たまだいら

一昨年度より居室担当者とケアマネジャーと共同でサービス計画書を作成する取り組みを行ってきたが、仕組みとしてPDCAサイクルが定着してきた。

今年度は、家族同席の担当者会議が年2回開催できており、目標だった年1回を上回ることが出来た。

今年度は、”利用者が望んでいるもの”という点に着目し、サービス計画の作成、実施に取り組んできたが、利用者、家族に聴き取りをしながら進めたものの、普段の日常生活とあまり変化のない内容であった。「サービス内容は何でも良い」としたことが職員個々の望みの捉え方が異なってしまう、アセスメント不足の原因と考える。

日々の生活のアセスメントに加え、これまでの生活歴からも情報をくみ取り、”利用者が望んでいるもの”の実現するための仕組みと教育が課題である。

利用者と共に買い物に行く事が日課となった。感染対策、外出時に関わる必要なルールはマニュアルにまとめ、職員が目を通せる位置に設置している。

今後は買い物のみならず、利用者のニーズに合わせた外出の機会を増やす事が課題。赤字経営が続いている。職員個々が事業所全体の収支を把握し、経費削減にむけ全体で取り組めるかが課題である。

グループホームたまだいら	R4	R3
利用定員	9名	9名
利用者数（延べ）	3,244名	3,126名
1日平均利用者数	8.9名	8.8名
稼働率	96.7%	95.4%
稼働日数	365日	365日
年間平均介護度	3.1	2.9
単価（1人1日当り）	15,405円	15,073円
総収入	49,977千円	48,913千円
職員数（常勤換算）	7.6	7.3

9. 小規模多機能ホーム みなみだいら

今年度は、地域活動を行っていたが、中心的な役割を果たしたとまでは言い難い。引き続き、事業運営の中に地域支援を活用したケアの在り方を実現する必要がある。職員が、建物内だけでケアを実施するのではなく、地域と関わりながらケアを実現していく事を意識できるよう日頃からミーティングを通じて行える事が望ましい。

令和5年4月から管理者を交代する。新任管理者には、労務管理・運営・サービスの質・教育の4つの柱を軸として業務にあたるよう依頼した。

小規模多機能ホームみなみだいら	R4	R3
登録定員	29名	29名
通所利用者数（延べ）	5,065名	5,376名
通所利用者数（1日平均）	13.8名	14.7名
宿泊利用者数（延べ）	1,657名	1,863名
宿泊利用者数（1日平均）	4.5名	5.1名
訪問利用者数（延べ）	8,917名	10,156名
訪問利用者数（1日平均）	24.4名	27.8名
登録者年間平均介護度	2.7	2.7
平均単価（1人1日当り）	6,235円	6,258円
総収入	97,516円	108,875円
職員数（常勤換算）	11.9	15.0

10. 小規模多機能ホーム さかえまち

事業目標を職員全体に周知し、取り組むことができた。毎月のブログの更新、活動報告書の配布は継続していく。地域での役割を定着させるために、地域連携係が中心となり、業務内で行える時間の統計をとり、結果を踏まえごみ拾いを定着させることができた。今後は、地域住民を交えた避難訓練、地域店舗との連携、事業所主催のイベント開催を行い、地域の一員として活動できる事業所作りを目指していく。

内部研修に参加できる環境を整えることができず、内部研修の参加率が低かった。内部研修に参加できるよう、内部研修参加計画書を作成、シフト調整等を行う。内部研修の参加率を上げ、職員のスキルアップを図る。職員を2つのグループに分け、ご利用者の支援、状態、様子等を話合う時間を設ける。担当ご利用者の理解を深め、チームケアを強化・充実させるため、職員のアイデア・気づきを共有し活かせる場を作る。ご利用者の担当職員が、モニタリング訪問同行、サービス担当者会議に参加することは継続して行っていく。

小規模多機能ホームさかえまち	R4	R3
登録定員	29 名	29 名
通所利用者数（延べ）	4,819 名	4,095 名
通所利用者数（1 日平均）	13.2 名	11.2 名
宿泊利用者数（延べ）	1,663 名	826 名
宿泊利用者数（1 日平均）	4.5 名	2.2 名
訪問利用者数（延べ）	7,837 名	4,952 名
訪問利用者数（1 日平均）	21.4 名	13.5 名
登録者年間平均介護度	2.7	2.7
平均単価（1 人 1 日当り）	6,993 円	8,491 円
総収入	100,137 千円	83,834 千円
職員数（常勤換算）	11.9	12.2

11. 東京都多摩若年性認知症総合支援センター

東京都からの委託事業に位置づけられている若年性認知症支援地域連絡会を、八王子市を対象に開催した。市、医療機関、地域包括、社会福祉協議会など市内 9 機関から 13 名に参加いただき、各関係機関の若年性認知症支援に係る事例報告、当センターや東京都の役割説明、各関係者と名刺交換をおこなった。

八王子市内の関係機関に対する当センターの周知活動として、医療機関、行政、地域包括、社会福祉協議会など計 35 か所に当センターのパンフレットを郵送した。

多摩地区の医療機関向けに当センターの事業説明会を行った。25 名の参加があり、そのうち八王子市内の医療機関から 4 名の参加があった。

産業医学ジャーナル(Vol.45 No.3)令和 4 年 5 月に「若年性認知症当事者への支援としての社会資源の活用」を執筆した。

評価と今後の課題として、上記の取り組みを実施したが、八王子市からの相談件数は 9 件にとどまり、目標達成には至らなかった。

今後の方策について、これまでと異なる周知やニーズ掘り起しの方法として下記の通り検討した。

東海大八王子病院や八王子医療センターの相談員、包括等の職員と、連携しているケースでのやり取りをきっかけに新規患者や相談者がいないか尋ねる。

八王子市内で相談件数の多い高齢者あんしん相談センター南大沢に、ステップアップ研修の際に若年性認知症の相談対応や啓発の実施有無について話していただく。

八王子市の認知症支援推進員が図書館での啓発を実施しており、そこに合わせて当センターのパンフレットの設置できないか模索する。

総収入	職員数	相談者実数	相談件数 (延べ数)
26,300,000 円	3 人	201 件	3,614 件

12. 地域公益活動

(1) 配食サービス

当施設で実施している配食サービスの特徴

- ① 日野市社会福祉協議会からの委託により、管理栄養士および調理の専門職が、施設の厨房機能を最大限活かして調理を行い、地域に提供している。食事内容については好評を得ており、食事内容に対する苦情は年度内無し。
- ② 嚥下に配慮した食形態にも柔軟な対応を継続している。
- ③ 配達を担当しているスタッフは昨年度よりパートスタッフへ移行中。ボランティアを含めて全て市内近隣の方なので配達地域の事情に明るく、地域住民との人的な繋がりもある。そのため受け取る側も安心して困り事などを話し、食事を受け取ることが出来ている。
- ④ 配食の重要な役割である安否確認について、年間数件救急対応に繋げることが出来ている。また連絡がつかないご利用者様のご家族、関係者への連絡でご逝去されている状態を早く発見できたことが2件あった。ご家族からも感謝されている。
- ⑤ 昨年度より日野市社会福祉協議会からの委託で、産後期の忙しい方へ昼食を2か月間お届けするサービスを開始した。受託件数順調に伸びており、社会とのつながりが少なくなる産後の方への安否確認もかねて実施している。
- ⑥ 配食サービスは好評を得ているため、委託数は常に配達可能数の上限を維持。昨年度からパートスタッフを雇用し、配達員は充足している。そのため昨年度のように新規をお断りするようなことは無かった。

R3	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
配食数										1,299	1,292	1,450	17,039
	1,501	1,478	1,435	1,482	1,444	1,452	1,418	1,394	1,394	10 (産後)	16 (産後)	16 (産後)	‘ (産後)
R4	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
配食数	1,516	1,545	1,554	1,514	1,580	1,499	1,442	1,412	1,429	1,386	1,296	1,488	17,661
	14 (産後)	26 (産後)	30 (産後)	21 (産後)	47 (産後)	74 (産後)	65 (産後)	35 (産後)	97 (産後)	44 (産後)	22 (産後)	26 (産後)	501 (産後)

(2) あったカフェ（認知症カフェ）

令和4年度よりあったカフェの運営は地域包括支援センター多摩川苑が行っている。今年度のあったカフェは毎月第3水曜日の10:30~12:00で定期開催した。

令和3年度は感染症対策の為に事前予約制を取り、来場者を限定して運営していた。今年度は地域の感染拡大状況等も踏まえた上で、関係者間で協議を行い、段階的に予約なしで利用できるようにすることが出来た。感染症対策は継続し、カフェ内での感染は確認されていない。

参加者やボランティアの方からは開催回数の増加や開催時間の延長等を望む声も聞かれており、今後の検討課題となっている。

参加者	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
地域の人	2	5	12	6	6	4	9	5	5	15	4
小多機利用者	7	7	5	4	2	5	3	0	3	4	8
ボランティア	6	6	6	4	6	5	5	5	6	5	6
関係機関職員	2	2	0	1	1	1	0	0	0	3	0
合計	17	20	23	15	15	15	17	10	14	27	18

(3) わんわん見守り隊

平成29年からスタートした「わんわん見守り隊」は、「犬の散歩」と「地域の見守り」を組み合わせた活動であり、「何か特別なことをするのではなく、普段の生活の中で自分の周りに気を配れる地域を目指している。」ことを目標としている。隊員は、多摩川苑地区の住民であることとし、犬を所有していなくとも登録することができる。令和4年度は10件の登録者があり内2名が推進員の登録を行っていただいた。発足時から計72名の登録者となっている。

令和4年度

番号	登録日	犬の名前	推進員登録
1	R4年5月20日	ぼち	
2	R4年5月22日		
3	R4年5月22日		
4	R4年5月22日		
5	R4年5月22日		
6	R4年7月13日	サニー	
7	R4年9月12日	ロン	
8	R4年10月20日		○
9	R4年12月15日		○
10	R4年12月23日	進	

VII地域密着型複合施設 マザアス新宿

1. 令和4年度総括

前年度になるが、2月には小規模多機能ホーム管理者、新年度に変わり4月にグループホーム管理者、5月に施設長の異動があり、同じく5月には看護部門のリーダー、6月にはベテランの生活相談員も異動するといったリーダー層の一斉交代のような中での令和4年度のスタートとなった。

（重大事故の対応）

このような混乱の中で6月には、特養部門で入浴介助中に利用者が亡くなるという重大事故が発生した。ただちに法事故対策委員会を開催するなど事故対応を行い、再発防止のためのサービス提供プロセスや危機管理体制等を見直すことになった。また事故を風化させないために事故発生日の28日を毎月「マザアス新宿 安全の日」とした。

（苦情対応）

同じ6月に小規模多機能ホームの利用者家族から苦情があり、文書での回答を求められる事態となった。この苦情を契機に重要事項説明書及び第三者評価の見直しを実施し、年末には福祉サービス第三者評価機関による評価を受審した。このような重大事故や苦情を契機として再発防止とサービス向上に職員一丸となって取り組んだ。

（新規入所者の確保と特養利用率）

開設から13年が経過した。開設時から入居されているような長期利用の入所者様の高齢化や重度化にともなう退所が相次ぎ、今期退所者は定員のおよそ4割となった。

一方、待機者に声をかけても、コロナ禍で面会が自由にできない・思ったより費用が高い等の理由から、入所を辞退するケースが5割を超えている。また9月には近隣に100床規模の新規の特養が開設したこともあり、一気に待機者が減少した。このような外部環境の変化で退所に入所が追いつかない状態が続き、大変厳しい利用率となった。このことが大幅な収入減の要因となっている。

（職員の離職と確保）

また職員の離職にも歯止めがかからず、離職に職員の確保が追いつかない状態も通年に渡って続いている。職員確保が思い通り行かないこともあり、高リスクのショートステイ新規利用者の受け入れなどの制限をしたことから上述の利用率低下収入減につながっている。

特に中堅やリーダー層の離職は、今後の施設経営に重大な影響を与える恐れがあるので、中堅やリーダー層職員の離職防止対策とともに法人レベルの人材確保・育成といった総合的な人事対策の強化が望まれる。

できることは何でもやるという視点から都内の10法人が連携して人材確保に取り組む「TOKYOの未来を創る社会福祉法人協力会」に参加した。他の法人と連携して3月に新宿区で就職フェアを開催した。また同じ3月に東京都就職フォーラムに参加した。両イベン

ト参加者からの応募はあったものの就職に至るケースは残念ながらなかったが、あきらめることなく継続することが重要である。

11月に職業訓練校から1名介護職員を採用することができた。また令和5年1月に3年間の技能実習(介護)を終了して特定技能にビザを変更したスリランカ人3名を採用した。

(新型コロナウイルスの対応)

7月から9月にかけて新型コロナウイルス第7波が到来し、新宿拠点でも職員や職員の家族にも感染者が発生したが、幸いクラスターとなるようなことはなかった。グループホーム職員の家族が感染したときには、東京都の補助金を活用し、職員にはホテルに宿泊してもらい勤務を継続することができた。第8波にも多少の混乱はあったがクラスターへと発展することはなかった。

(新宿区へ経営支援を要望)

10月から11月にかけて新宿区介護保険課とマザアス新宿の経営支援について協議する機会を得た。開設から12年間の収支を分析したうえで今後の経営支援等を要望した。このこととは別に、ウクライナ戦争などによるエネルギー・物価高騰が著しく施設経営を圧迫することになったが、新宿区から物価高騰対策費として約300万円の補助を得ることができた。

(設備の経年劣化と更新)

3月に4階の給湯設備が経年劣化により故障した。修理は不可能ということで更新せざるを得ない事態となった。440万円をかけて更新することになったが、他のフロアの設備も更新の時期を迎えており、財源の確保が課題となっている。

(借入返済金)

昨年からコロナ禍における特別措置として福祉福医療機構からの借入金返済を猶予いただいているが、日野拠点の大規模修繕の借り入れが生じたことから猶予を辞退し、返済することになったことからさらに収支の悪化を招いた。

令和4年度重点課題について、下記に報告する。

1 人材育成の整備

- ①プリセプター制度を活用して新規採用職員のためのオンラインを活用したeラーニング研修を実施している。
- ②外国人介護従事者のための日本語教室オンライン授業を活用して、可能な限り受講できるよう勤務などを調整している。
- ③中堅職員には認知症介護基礎研修や実践者研修の受講を可能な限り受講できるよう取り組んだ。

以上の取り組みで成果指標は、Bとした。

2 職員の職場定着

①「職員の資格取得及び資格保持に対する法人の支援に関する規定」の周知などスキルアップのための仕組みなどを説明した。

介護職員の離職率は、11%で昨年実績を下回ったが、期待レベルには達していないこともあり、成果指標はCとする。

3 個別の余暇支援の充実、ユニット調理の実施、誤嚥性肺炎による入院者ゼロ

①コロナ禍においても可能な限り個別の要望に応じた外出や季節の行事を実施した。ユニット調理でできるおやつなど工夫して提供した。

②誤嚥性肺炎による入院者ゼロを目指したが、1名の利用者が誤嚥性肺炎により入院した。

以上から成果指標は、Bとした。

4 ショートステイ稼働率向上と介護人材の確保

①前述の再掲となるが、職員確保が思い通り行かないこともあり、高リスクのショートステイ新規利用者の受け入れなどの制限をしたことから目標を大きく下回ってしまった。成果指標は、Cとする。

5 重度化対応力アップと離職しない職場作り

①長い時間をかけて利用者の重度化に対応してきたベテラン職員とまだ日が浅い職員との対応力に差がある。立位や座位が限界の状態での移動介助や入浴介助また嚥下能力が限界の状態での食事介助などで課題がある。離職しない職場づくりのためにも職員のスキル合わせた介護計画の変更などをきめ細かく行う必要がある。

課題が多いことから成果指標は、Cとする。

6 職員による知識や技術の獲得

①2月の1カ月間にわたり、訓練用のAEDや人形を使用して特養・グループホーム・小規模多機能の介護職員ほぼ全員に緊急時の心肺蘇生訓練を実施した。

成果指標は、Bとする。

7 収支の改善

①過去実績からワーストに近い実績で、成果指標はDとせざるを得ない。

8 生産性向上への取り組み

①4月に特養のナースコール設備が更新され、コールがスマートフォンに届くようになったため、どこからの呼び出しかが瞬時にわかるので無駄な動きがなくなった。そのため、コール対応などに遅れが出ての転倒等は1件も発生していない。また職員への負担軽減にも寄与している。

成果指標は、Bとする。

2. 地域密着型特別養護老人ホーム／ショートステイ

開設から13年経ち、ナースコールシステムの老朽化とシステムのサポート終了につき、新しいナースコールシステムを導入する必要があった。また、ナースコールがリビングでしか呼び出し音が鳴らないため、居室に入っていると音が聞こえない部屋があり、センサー対応などに遅れが出て転倒の危険性がありました。職員がリビングまで戻らないとなっている部屋を確認できず、無駄な動きが多く精神的、肉体的負担が大きかった。

昨年度末から業者を選定し、4月に新しいナースコールを導入後、業者から職員に使い方、注意点の研修を3回行いました。参加できない職員は、参加した職員から伝達研修を行い、全員が使い方を周知出来ました。その後は問題なく運用できていて、今年度一年間で、コール対応の遅れによる事故は1件も起きていない。10月にナースコール導入後の負担に関するアンケートをナースコール対応する職員11名に配布し、全員から回答がありました。肉体的負担は、楽になったが8名、変わらないが3名、負担が増えたと答えた職員は0名でした。精神的負担は、楽になったが10名、変わらないが2名、負担が増えたが1名（複数回答在り）でした。9割以上の職員が負担は軽減されたと答えている。職員の声としては、「無駄な動きが減って、精神的に追い詰められない」、「コール音のストレスがなくなった」といった意見が多かったです。変更する前の方がよかった事としては、「スマホが重い」、「対応する職員が限定されてしまう（スマホを持っている職員のみ）」と言った意見があがった。新しいナースコールを導入し、職員の負担軽減と入居者が事故なく安全に生活できる環境作りはできていると思う。

「楽しみのある生活を送る」については、毎月各ユニットでコロナ禍でもできる余暇支援を行い、全てブログにアップ出来ていました。ブログを毎月アップすることで、面会に来られず日々の様子が分からないご家族にも施設での生活の様子を見てもらった。ご家族も良く見て下さり、時折感想もいただいた。面会については、陰圧装置を使用したビニールシート越しの面会は、感染者数に関わらず、一年を通して実施できていた。リモート面会は2家族のみの利用だったが、毎月楽しみに面会されていた。

新型コロナウイルスの感染者減少にともない、マスク着用の個人判断や5月には感染症法上の位置づけが5類に引き下げになり、「新しい生活様式」に向けて施設内の面会も段階的に緩和していきたいと思う。

「入居者に新型コロナウイルス感染者を発生させない」については、今年度は、職員に新型コロナウイルスの陽性者が何名か出たり、濃厚接触者が出たりしたが、職員に陽性者、濃厚接触者が出た際は、BCPに基づき対応し、入居者の感染者は1人も出なかった。今後も重症化しやすい高齢者にとって感染は生命の危機となるため、施設内において感染を持ち込ませない対応が重要である。仮に施設スタッフ、入居者に感染がおこったとしても、他入居者や他フロアへの感染伝播を防ぐことを積極的に行い、重症化を阻止し、死亡者を出さないようにしていきたい。

ショートステイに関しては、年間平均稼働率の目標が大きく及ばなかった。要因としてはご利用者がコロナウイルスに感染し、8月と1月中旬～2月中旬までサービス休止したこと、並びにショート利用を控えたり、利用そのものを止めた方がいたことがあげられる。

各専門学校から実習生を受け入れ、アルバイトやマザアスに就職する学生を増やすことについては、営業で挨拶に行った専門学校よりアルバイト1名が来てくれたが、目標の2名には達成できなかった。

昨年度は、特養の退所者が例年と比べ倍近くと多く、特養の新規面接とショートステイの新規面接を平行して行うことが難しいことが多かった。相談業務そのものを整理して新規面接に集中できる環境を作ることが重要と感じた。

	2022 特養	2021 特養	2022 ショート	2021 ショート
利用定員	29 名	29 名	3 名	3 名
利用者数（延べ）	8,700 名	9,937 名	520 名	708 名
1 日平均利用者数	23.8 名	27.2 名	1.42 名	1.94 名
稼働率	81.9%	94.6%	48.3%	64.5%
稼働日数	365 日	365 日	365 日	365 日
平均介護度	4.3	4.5	4.0	3.9
単価（1 人 1 日当り）	17,834 円	17,667 円	15,078 円	15,213 円
総収入	154,921 千円	175,397 千円	7,815 千円	10,772 千円
職員数（常勤換算）	16.8 名	17.6 名	—	—

3. 小規模多機能ホーム さくら

2022 年度、小規模多機能ホームでは新型コロナウイルス感染症の影響により昨年度から引き続き様々な制限の中での活動を余儀なくされた。これまで実施してきた地域イベントやボランティア活動に参加できなかったため、地域の方々との交流が制限された。また、外出や外部からの来訪についても慎重に対応しなければならなかったため、利用者の方々と外部の方の交流なども制限される結果となった。

なお、感染症対策は行っていたものの 8 月には職員 1 名の新型コロナウイルス感染症患者が発生した。重症化には至らなかったものの、結果的には職員 3 名ご利用者 2 名の計 5 名が感染し、一時利用の受け入れを制限することとなった。

そんな状況ではあるが職員のスキルアップのため、多人数での対面を避けて実施できる e・ラーニング研修を昨年度から引き続き実施している。2 年目となる 2022 年度は職員もシステムに慣れ、四半期に 1 回の計 4 回、感染症やハラスメントなどに関する研修を受講した。

また今年度の取り組みで大きなものが公文の学習療法の導入である。公文の学習療法は音読、簡単な計算とコミュニケーションを行うことで認知機能の維持、改善を目指すもので、新宿区内では初の導入となる。私たちは施設内で学習療法実践士を複数名配置し、利用者様が自分自身のペースで学べるよう丁寧な指導を行った。これにより利用者様の中には自己の成長を実感することができ、自信をつけることができた利用者様もいる。新宿区内では他に無いこの機能を訴求してゆくことで、今後の利用者の獲得に繋げたい。

上記のように新しい取り組みも進めてきたが、2022 年度の収益は 74,188 千円という結果になった。新規利用は 9 名あったものの、利用終了者も 9 名（うち 6 名はご逝去）で収益拡大には至っていない。

地域の高齢化による需要は高まっていると思われる。今年度は様々な要因でそれを的確に取り込むことが叶わない側面もあったが、次年度は地域に根ざしたサービス提供に力を入れ、収益改善に繋げたい。

小規模多機能ホーム	2022 年度（令 4）	2021 年度（令 3）
登録定員	29 名	29 名
平均登録者数	22.8 名	24.4 名
通所利用者数（延べ）	3,36525 名	3,993 名
通所利用者数（1 日平均）	9.1 名	10.9 名
宿泊利用者数（延べ）	1,440 名	1,492 名
宿泊利用者数（1 日平均）	3.9 名	4.1 名
訪問利用者数（延べ）	3,281 件	3,492 件
訪問件数（1 日平均）	8.9 名	9.6 名
登録者平均介護度	2.0	2.2

1人1日当り収益	8,616 円	8,895 円
総収益	71,699 千円	80,516 千円
職員数（常勤換算）	12.1 名	13.8 名

4. グループホーム つつじ

前年度同様、新型コロナウイルスは猛威を振るっており、事業所内でのクラスターを警戒しながらの1年間であった。職員やその家族において、数名の罹患者が発生してしまったにも関わらず、ご利用者に影響が及ばなかった事は幸いであった。

今年度は前年度に引き続き季節毎の園芸に花や野菜の育成を加え、創作の壁飾りを含めてご利用者に季節の移り変わりを実感していただけるような活動に取り組んできた。実際にご利用者に加わっていただけるような機会は少なかつたと言わざるを得ない状況ではあったが、植物や創作物を介してご利用者と季節の会話を交わす事ができた事、その上でただぼんやりと日々を過ごすのではなく、季節の移り変わりを感じていただけた事は成果であったと考える。ただ、依然として地域交流や外出の機会は無いに等しい状況は継続しており、ご利用者の間に漂う閉塞感を払拭できるには至っていない。

次年度の事業計画において、園芸については生育が難しい事、季節毎に植え替えたりする事も困難である事から、一旦事業計画からは外し、その代わりに季節の生花を飾る事でホーム内にいながらにして季節の移り変わりをご利用者に感じて頂ける事を目指す。季節の創作壁飾りについてはご利用者と職員との協同作業の機会として継続していく。また、依然として本格的な外出は現時点では依然として敬遠される所だが、運転ができる職員が若干増えた事もあるため、定期的にドライブを実施する事でご利用者の持つ閉塞感の緩和に繋げていく。

グループホーム	2022 年度 (令 4)	2021 年度 (令 3)
利用定員	18 名	18 名
利用者数 (延べ)	6,116 名	6,355 名
1 日平均利用者数	16.7 名	17.4 名
稼働率	93.1%	96.7%
稼働日数	365 日	365 日
平均介護度	2.7	3.0
1 人 1 日当り収益	15,262 円	14,900 円
総収益	93,027 千円	94,685 千円
職員数 (常勤換算)	13.7 名	15.2 名